研究分野	授業科目名	科目責任者
組織培養・免疫系分野	免疫病態学特論Ⅰ・Ⅲ	向井 知之

開講年次	共通／専攻／選択	単位数	
1,2,3,4	特論Ⅰ：必須専攻, 特論Ⅲ：選択	特論Ⅰ：4（2/年）, 特論Ⅲ：1/年	

目的

研究課題に関連する英語原著論文を読むことは，研究領域の情報収集，実験方法の検討，研究計画の立案に必要である。以下を学習の目標とする。
（1）教員の論文紹介を見聞きして理解する。
（2）原著論文を精読し，内容を理解する。
（3）実践的な原著論文読解力を身につける。
（4）質問や応答などの双方向性相互作用により理解を深める。
（5）未解決の問題点を認識する。

授業到達目標

（1）技能：自分の研究に必要な英語原著論文を検索することができる。
（2）技能：人に説明できるまで論文の図や表の内容を理解する。
（3）技能：論文の内容を要約して人に簡潔に紹介できる。
（4）解釈：論文を批判的に読み評価することができる。
（5）想起：論文の構成を理解し，自分の論文作成に役立てることができる。
（6）技能：論文を読んで得たことを自身の研究に反映させることができる。

授業計画

回数	月日	曜日	時間	担当者	区分 1	区分 2	授業内容
1	毎週	火	8:30-10:30	向井 知之 馬場 伸育	講義	[抄読会] [研究検討会]	免疫学の新知見，および自己免疫疾患・自己炎症性疾患・炎症性皮膚疾患・リウマチ性疾患などの病態解析・治療等に関する英文原著論文を紹介する。 [場所:本館棟 7 階免疫学実験室]

評価方法

【特論Ⅰ】
（1） 1 年間※で 30 時間出席し，科目責任者から履修手帳に出席印をもらい，提出する。
（2） 1 年間※で，論文紹介または症例発表を 2 回行い，その要約 2 編を提出する。
【特論Ⅲ】
（1） 1 年間※で 15 時間出席し，科目責任者から履修手帳に出席印をもらい，提出する。
（2） 1 年間※で，論文紹介または症例発表を 2 回行い，その要約 2 編を提出する。
ただし，特論Ⅰ・Ⅱで紹介したものとは異なる論文（症例）であること。
特論ⅠとⅢの同年度での重複受講は不可とする。
※1～3 年生は 2 月末まで，4 年生は 11 月末までの講義を当該年度の単位認定の対象とする。

課題（レポート等）に対するフィードバック

（1）論文紹介については，内容の理解や紹介の仕方など改善すべきところがあれば指導する。
（2）要約は添削して返却する。必要があれば加筆・修正を加えて再提出する。

教科書

ISBN-978-4860346768, 分子細胞免疫学 ： アバス-リックマン-ピレ　原著第 10 版, Abul K. Abbas, Andrew H. Lichtman, Shiv Pillai 著 ; 中尾篤人監訳, エルゼビア・ジャパン, 2022
ISBN-9784524251155, Janeway's 免疫生物学, Kenneth Murphy, Casey Weaver 著, 南江堂, 2019
ISBN-9784260042383, 標準免疫学　第 4 版, 小安重夫, 椛島健治編集 ; 小安重夫 [ほか] 執筆, 医学書院, 2021

参考書

ISBN-9784815730819, エッセンシャル免疫学　第 4 版, ピーター・パーラム著, メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2023

準備学習（予習・復習等）

予習：（1）受講に際して，免疫学教室の論文を読み，わからないことがあれば質問して理解する。
　　（2）論文紹介で取り上げられる論文をあらかじめ読んで臨む。約 1 時間程度の予習を行う。
復習：紹介された論文の内容を自分の言葉で要約する。1 時間程度の復習を行う。

修了認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

課題を探求し，仮説立脚，検証に至るまでの科学的方法論・思考法を身につける。

注意事項・メッセージ

（1）学会等で教員が不在の時は，休講とするので，予定は前もって確認すること。
（2）文献は，Nature, Science, Cell, Immunity, Nature Immunology, Nature Medicine, Journal of Experimental Medicine, Journal of Clinical Investigation, Journal of Immunology 等から選ぶこと。
（3）自分が紹介した論文の要約はその週の内に提出すること。